



# 若小便り



若松小HP用QRコード

令和3年度 若松小学校便り第4号 令和3年7月21日(水) <http://wakamatu.lolita-punk.jp/>

令和3年度重点教育目標 「自尊感情を高め、自ら学び、考え、行動する子どもの育成」

## 若小の森 / *Forest Flower by Charles Lloyd 1967*

校長 本谷 弘之

このたびの令和3年7月豪雨で被災された皆様ならびにご家族の皆様には心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地域の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

『人生は紙飛行機 願い乗せて飛んで行くよ 風の中を力の限り ただ進むだけ  
その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ♪』

(抜粋「365日の紙飛行機」AKB48 : 運動会で演奏したこの曲。2学期は違う形で。)

この学校便りの発行日、つまり町内回覧が始まる21日は、開会式に先だって東京オリンピックの最初の競技が始まります。それも、本校にとっては非常に縁のあるオーストラリアと日本とのソフトボールの試合。子どもたちにとっては、「タスマニア島がある国のチームだ」と、オリンピックが身近に感じてくれるでしょうか。そのタスマニアという島は、世界中で一番環境汚染が少なく空気がきれいな地域と認められているそうです。だから、地球の最も古い姿を今でも残す原生林が存在しているというも頷けます。樹齢1000年にもなる木々が……と、タスマニア島の説明書を読みふと気がつきました。確か、若松の地域で大切に守られている「祖(みおや)の松」の樹齢は推定900年、と子どもの発表で聞いたばかり。その姿に違いはあるでしょうが、ここでも樹齢の長い木という共通点があるではありませんか。

タスマニア島と比べても遜色のない自然がこのせたな町にはあります。

そして、この若松小学校敷地内にも、これまで意識されずにいた、学ぶべき自然の姿をとどめた森があったのです。グラウンド横の木々が生い茂ったところ。そこは、入ってすぐに目につくだけでも10種類以上、奥まで入り込むと30種類以上の樹木が生息する自然林でした。



子どもたちは、檜山振興局森林室の方々や杉の子林業グループの方々のご指導により、「森には雨水の保水効果やろ過を行い湧き水としてきれいな水を排出する効果がある」ことを紙芝居や実験により学んで森の大切さを知った後、「若小の森」と名付けた森の木々の名前を調べてそれぞれにプレートをつけました。

このようにちょっと視点を変えると学びに結びつく物はたくさんあります。子どもたちは、この1学期の間でどれだけ新しいことに目を向けることができましたでしょうか。夏休み期間中も、好奇心という学ぶ意欲を持って、毎日を有意義に過ごし、2学期には明るく元気な姿で登校してきてほしいと願っています。これまでの保護者・地域の皆様のご理解・ご協力に感謝するとともに今後のご支援についてもよろしくお願い致します。修学旅行を含め、一学期に行われた様々な行事の様子は若小HPで詳しく紹介していますのでそちらをご覧ください。



※ 当時、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いのジャズ・テナー・サクソ奏者チャールズ・ロイトがモントルー・ジャズ・フェスティバルに出演した際のライブ盤。ピアノにキース・ジャレット、ドラムにジャック・ティゴネットを従えて熱い演奏を聴かせてくれます。ジャズ史に残る名盤であることは間違いありません。それにしてもキース・ジャレットとジャック・ティゴネットのプレイの相性はこの頃から抜群でした。

# 令和3年度学校経営方針の説明(第4回)

前は、具体的実践事項の「学びを育む」について紹介しましたので、今回は残りの三つのうち「心を育む」「体を育む」の二つを紹介します。※は、今回も説明のために付け加えたものです。

## 心を育む

### ○道徳教育の充実【教務部】

- ・道徳教育推進教師を中心とした「考え、議論する道徳」への授業改善 ※授業研究で実践
- ・全学級の保護者への道徳授業公開 ※7月参観日で実施

### ○いじめ防止基本方針の徹底【生徒指導部】

- ・「いじめは絶対許されない」との意識づくり ※担任の思いを伝え子どもと話し合い理解させる
- ・児童会活動を通しいじめ撲滅の取組 ※「スベ水」等児童会企画による全校遊び等

### ○コミュニケーション能力の育成【生徒指導部】

- ・挨拶・礼儀・場に応じた言葉遣いの徹底とコミュニケーション能力の育成 ※外部講師を積極的に導入し会話の機会を増やしたり、タスマニアの子どもたちとのオンライン交流を行ったり等の実践
- ・自尊感情を高め、他者を尊重し頑張りを認める心の育成 ※目標を定め褒める場面を増やす
- ・感謝の気持ちを育てる運動の推進 ※外部講師への感謝の気持ちを綴ったお礼状の作成等
- ・特別活動・総合的な学習の時間の充実 ※コミュニケーションを実践する場の設定

### ○教育相談の充実【生徒指導部】

- ・担任による教育相談の、日常的、計画的な実施 ※全校での教育相談日を設け保護者と連携
- ・児童実態交流による情報の共有 ※全児童の「個別の指導計画」を作成し、より計画的な指導方針の確立
- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした、特別支援教育研修の充実 ※今後の教員生活に活きる研修、ユニバーサルデザインを用いた教室環境や教室経営

## 体を育む

### ○健康増進、体力の向上【健康安全部】

- ・全校児童による新体力テストの実施と体力向上の視覚化 ※春、秋の2回で検証
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の参加と結果活用 ※持久力育成のための校舎内5分間走
- ・「ススンde運動」の活用 ※檜山管内運動習慣形成プログラム「ススンde運動」を準備運動に
- ・食育・給食指導の推進 ※スクールヘルスリーダーによる歯磨き指導等健康指導に関わる助言
- ・がん教育の推進 ※保健指導で特にがん教育については適切な資料を用いて重点的に取り上げる
- ・感染症対策に関する取組 ※文部科学省による「新しい学校生活様式」の実践

### ○安全な生活・自分の命を守る意識の向上【生徒指導部他】

- ・交通安全教室の実施
- ・火災想定時、地震想定時、不審者侵入時避難訓練の充実
- ・ネットトラブル防止に関する取組
- ・薬物乱用防止に関する取組
- ・定期的な安全点検の実施
- ・地域の安心安全に貢献する取組



# 一日防災学校

7月2日（金）の午前中は、地域と共に学び、考える防災学校を行いました。

右のようなチラシを地域に配付させていただいたおかげで、この日は、11名の保護者や地域の方に参加していただきました。



チラシにあるとおり、第1部では火災時の避難訓練を体験し、水消火器体験に煙り体験で、火災時に煙に巻き込まれたときにどうしたらいいかお話を聞きました。

第2部では、ホールと児童会室に用意したレスキュー体験用のダミー人形を用いて、心肺蘇生とAEDの使い方を、これも参加者1人ずつ体験することができました。倒れている人を見かけたら近づいて声をかけ、意識がないようならすぐに手を上げて人を呼び、救急車とAEDの手配をお願いし、自分は人工呼吸（今回は感染予防のため省略）と心臓マッサージを行います。

心臓マッサージの仕方は、押す場所と力加減が難しかったですが、最終的に皆さんできるようになったようです。ここまで様々な準備や講師を務めていただいたせたな消防署の方々、非常ベルを鳴らすために来ていただいた道南防災の方々に感謝いたします。

第3部は、檜山振興局の防災課の方々や、せたな町役場の方々にご協力を願って、体育館で避難所づくり体験を行いました。避難所では、たとえ畳の上でも直接寝るのは好ましくないそうで、みんなで2種類のダンボールベッドを作ってその強度に驚いていました。



また、ベッドにしたダンボールがテーブルになったり、棚になったりするのを見てさらに驚きです。他にも簡単に設置できるテントを実際に作成してみてプライベートな空間を避難所に確保できることに安心したり、簡易トイレや電動トイレを紹介していただいたり、実際に避難生活をするにあたり、災害への不安はありますが、心なしか安心感を得ることができました。

今回、せたな町内で避難所を設置する際に、せたな町役場で用意できる避難所グッズを、少人数とはいえ同じ町民の皆様にも紹介できたことは有意義なことだったと思います。ご協力ありがとうございました。



## 1日防災学校

いつ起こるか分からない災害に対して、日頃の備えや訓練が大切になってきます。1日防災学校を通して、地域の皆様で学び合い、地域防災力を高めていきましょう。この機会に、ぜひご参加ください。参加無料です。持ち物は特ありません。

保護者の皆様へ ご都合がよろしければご参加ください。  
日時 令和3年7月2日（金）雨天決行

場所 せたな町立若松小学校

内容

せたな消防署によるご協力

第1部 9時10分～避難訓練、水消火器・煙体験

第2部 10時15分～心肺蘇生・AEDの実技講習

檜山振興局、せたな町役場によるご協力

第3部 11時10分～避難所設営体験



※発熱、風邪などの症状がある場合は参加をご遠慮ください。  
※参加される方はマスクを着用し、家で検温をお願いします。  
※災害時用の飲料水・保存食をお持ち帰りいただけます。

せたな町教育委員会の生涯学習指導主事が、本校訪問の際の所感を寄せてくださいました。多くの方に読んでいただきたい内容でしたので、ご承諾を得て掲載させていただきます。

## 学校訪問所感

せたな町教育委員会生涯学習指導主事 O.H.

5人の生徒と5人の教職員の学校。ゆったりとした時間が流れ、その時間を10人で共有する空間としての学校。地域の中の学校であるこの若松小学校も今年度約120年の歴史に幕を下ろすことになったことを考えれば、感慨深く感じる。

校長室にある歴代の職員名や児童数が書かれた年表を見ると、児童数のピークが昭和30年代前半であることがわかる。全校生徒が300人を超えるときもあった。

福島県猪苗代町から入植した丹羽地区と同様、会津若松からの入植者がこの地域に鋤をおろし、生活の糧を農に求めることを開祖の起点としながらも、戦後の社会構造の変化の中で営林署もこの地区に置かれ、農業と林業が基盤産業として根付いていったのが昭和30年代であったと推察される。

いつの時代も子どもは地域の宝であることに違いはない。未来を切り開く子ども達に豊かな教育を提供することで、先行世代の大人たちは子ども達に「希望」を託した。120年間、学校での様々な教育活動、それは時代時代の要請を受けてのものではあるが、それらの教育活動を通して子ども達に「希望」を託し、子ども達自身が「希望」を育むことを願った。

前置きが長くなってしまったが、若松小学校は閉校というその歴史の一時に直面しながらも、学校は使命を終えるが、子ども達の人生はこれまでに続くこれからがあることを常に念頭に置きながら学校経営が行われていることを感じた。学校の区切りは子ども達の「学び」の区切りではないというスタンスが見え隠れする。

それだからこそ、子ども達がこれからの人生をたくましく生きていくための素地を身体化するために、様々な教育的活動を提供している。校舎内5分間走では「職員室」内も駆け抜ける。騒いではいけないところで騒ぐこと。子どもたちは「非日常」を楽しむことにわくわくする。火薬ロケットを飛ばす、海の遙か向こうのタスマニアの小学生との交流、今後、灯台下くらしとも言える、近くても入ったことのないグラウンド脇の森にある樹木についても指導してもらおうという。運動会で披露した鼓笛の楽曲も1年間の随所でアレンジして保護者と地域に発表する予定とも。

まさしく、めざす学校像の一つである「明日も来たい」、と思える学校と5人の子どもたちは感じているのではないだろうか。

3月まで日々子どもたちと教職員が「若松小」を堪能し、それぞれの心のひだに「なつかしさ」を刻み込むことを願っている。

## 8月の行事予定 (※今後の情勢により変更になる可能性があります)

日	曜	行事予定	バス	日	曜	行事予定	バス
1	日			17	火		
2	月			18	水	オンライン交流10:00~11:00	
3	火			19	木	若松寺子屋② 9:00~12:00	
4	水			20	金	始業式	12:00
5	木			21	土		
6	金			22	日		
7	土			23	月	二計測、5・6年交流学习	14:50
8	日	山の日		24	火	スペ水	14:40
9	月	振替休日		25	水	農業センター、水泳学習③	14:40
10	火			26	木	海の教室、夏休み体験発表会	14:40
11	水	学校閉庁日		27	金	夏クラブ②、海の教室予備日	14:40
12	木	学校閉庁日		28	土		
13	金	学校閉庁日		29	日		
14	土			30	月	全校集会(業間)	14:40
15	日			31	火	水泳学習④	14:40
16	月					※9月2日~3日は、5・6年宿泊研修	